

※このメールは、ミット・エナジー・ビジョン社の視察セミナーにご参加頂いた方々に BCC でお送りしています。

※四半期に1度程度、メールニュースをお送りします。

※お手数ですが、ご迷惑に思われる方は、「送付不要」とだけ記して、送信者に返信していただけますと送付リストから外します。よろしく願いいたします。

皆さま、お元気でしょうか？

2019 年も終わり、2020 年になろうとしています。皆さまは1年を振り返って、どのような総括をなされたでしょうか？

MIT のメンバー3名は、12 月後半に会議をして、この MIT 社で行った様々な事業、出来事を振り返りながら、総括し、経営理念にブレがないことを確認して、来年度の予定を再確認しています。

さて、そんな議論が終わった際に、皆さんに新春の挨拶を動画で撮影しようというアイデアが出ました。もしよろしかったら、ご視聴ください。

<https://youtu.be/wPelqnCttjA>

今回も、MIT メンバー3名から、皆さまにコラムと各種の告知についてメールニュースをお送りします。今回は、池田→村上→滝川という順でコラムを書いています。それでは、最後までお楽しみください（村）。

MIT：池田

「水面に投げた石の波紋」

「始まりは、おおよそ 40 年前、少数のパイオニアたちがいくつかの地域で水面に投げた小さな石だった。石が水に落ちると小さな波紋が生じた。パイオニアたちは、幾度となく石を投げ続けた。信念をもって粘り強く再生可能エネルギーの未来を訴え、行動し続けた。たくさんの小さな波紋は時間とともにゆっくり広がり、相乗的に力を増していった。そして技術の進歩と相まって、大きなうねりとなり、政治を動かす、制度を変えた。新しい制度は、波の力と勢いをさらに増幅させ、技術のさらなる発展も促した。.....」

上記は、2012 年に欧州に住む 5 人の日本人の仲間と一緒に出版した「100%再生可能へ！ 欧州のエネルギー自立地域」（学芸出版）の「おわりに」に、私が書いた文章です。この本が、MIT を設立するきっかけになりました。これまで 8 年間、欧州の多様な先進事例とその背景にあるパイオニアの精神、コンセプト、制度、技術、

教育を、多数の日本のみなさんに紹介し、再生可能エネルギーを一つの軸にした持続可能な社会づくりを応援してきました。その間に、制度もコンセプトも技術も大きく発展してきました。

MIT のメンバーは、水面に石を投げ続けてきました。その波紋はどれくらい広がり、どれくらいの相乗的に力を増して行ったでしょうか？ 私の個人的な実感は、まだまだ満足できるものではありません。

「エネルギーヴェンデ（大変革）」は、個々人の「心のヴェンデ」がベースになることによってはじめて動き出します。まだたった 8 年、今後も諦めずに、石を投げ続けたいと思います。

！お知らせ！

★ 2019 年 5 月 24～30 日中欧視察セミナー

ミット・エナジー・ヴィジョンでは、2020年5月に募集型視察・セミナーを企画しました。今年のテーマは、地域におけるエネルギー大転換や再生可能エネルギー利用の最新傾向です。欧州地域における持続可能な開発（SDGs）についても、多様な側面から体験できる視察プログラムになっています。参加をご希望の方は弊社にメールでご一報ください。

開催期間：2020 年 5 月 24 日（日）～30 日（土）

開催場所：チューリッヒ空港集合・解散、南ドイツ・北スイス

費用：2600ユーロ

お問合せ：info@mit-energy-vision.com

プログラム概要

5 月 24 日（日）チューリッヒ空港・到着日

5 月 25 日（月）シンゲン市、市民エネルギー企業ソーラーコンプレックス

5 月 26 日（火）バーゼル市、都市部における太陽光発電利用の最新例

5 月 27 日（水）黒い森地方のシュタットヴェルケと持続可能な木資源利用

5 月 28 日（木）フライブルクのまちづくり、ドイツのエネルギー政策

5 月 29 日（金）太陽光発電事業者から見た自家消費ビジネス、総括

5 月 30 日（土）チューリッヒ空港へ移動、解散

詳細プログラムは弊社ホームページをご覧ください（PDFのプログラムもDLできます！）：

www.mit-energy-vision.com

MIT：村上

「議論すること、意見を聞くこと、そして立ち上がること」

ドイツではクリスマスの際に大統領が国民に1年を総括したメッセージを送ることが恒例です。連邦大統領は国家元首ではありますが、政治的な権限を有する首相とは異なり、中立的権力を有しているのみと定義されており、どちらかという倫理模範としての性格が強いため、与野党を含めた政治家、および州議会から選出される選挙人から選出される人格者でなければなりません。したがって大統領の行う演説や訓話は、そのまま、その時代のドイツ国民の象徴的な質・姿を表していると表現しても良いかもしれません。

昨年のクリスマスの際の大統領のメッセージは、次のようなものでした：

「いろいろな社会層、年齢層、国籍、肌の色の違い、宗教の違い、性に対する違い、そして意見の違いが多様に存在するのがドイツという国です。最近では異なる属性の方と【議論する】というドイツの文化が弱まっているように観察されます。様々な方と、大いに意見を交換し、言い争ってみてください。意見の食い違いがあったら、それを否定するのではなく、まずは【聞いてみる】ことを試してください」

今年のシュタインマイヤー大統領のメッセージは、以下からご覧になれます（ドイツ語ですが…）。

<http://www.bundespraesident.de/SharedDocs/Reden/DE/Frank-Walter-Steinmeier/Reden/2019/12/191225-Weihnachtsansprache-2019.html>

その中で印象的だったのは、冒頭の以下のくだりです（要約してます）：

「1年前に私が皆さんに送ったメッセージを覚えていますか？ 【異なる意見の方と議論してみてください！】でした・・・それを今年は多くの国民の皆さんが行ったようです・・・そして過去にないほど多くの争いが発生しました。それでは、その争いはどうしたら良いのでしょうか？ 人びとが争うばかりの摩擦から、お互いへの配慮にはどうしたら移行できるのでしょうか？ 多くの方は、私たちはお互いに結びついているよりも、分離されている傾向のほうが強いとも感じています。そんな問いかけに対して、連邦大統領が解決することはできません。とりわけ誰か一人での解決はないんです。この問いに回答するのはあなたなんですから。あなた方すべてが答えを出すことができるのです」

これに続いて大統領は、もしドイツ国民の皆さんが、バスの中でも、ネットの中でも、差別や暴力を目にしたなら、勇気をもって【立ち上がること】を国民にお願いしています。

はい、今年一年を振り返って、ドイツ社会の右傾化、一部の属性の違いでの差別や暴力的な行動、そしてテロまでが進行している事態について大いに憂慮していることを思わせる強いメッセージでした。この傾向はドイツばかりではなく、世界中で見られています。

そんな中、再生可能エネルギーの推進による世界の平和を求める若者たちが、数百万人という規模で立ち上がったのは、偶然でしょうか？ 彼らはこのことを気候正義と呼んでいます。

！お知らせ！

★ MIT 村上によるまちづくりセミナー動画、Youtube チャンネルの開設について

MIT 村上が Youtube チャンネルを開設し、エネルギー、交通、都市計画などまちづくりの要素について解説している動画を公開しています。ご興味があればぜひ、覗いてみてくださいね：

https://www.youtube.com/channel/UCLwq67RF5ZhgcUI_ud4ovBA

MIT：滝川

「希望でなく行動を」

これは今年の夏にヨーロッパで一躍有名となったドイツの若き女性船長カロラ・ラケーテさんの本のタイトルです。彼女は地中海で救助した難民を乗せた船を、イタリア・ランペドゥーザ島の港に強行入港させ、逮捕された事で注目されました。

その著書の中でラケーテさんは、気候温暖化や自然環境の破壊が難民増加につながっていることを指摘し、過去数十年に渡り政治や国際社会が温暖化問題を根本的に解決できなかった事を顧みて、「希望でなく行動を」と読者に訴えています。

温暖化のティッピングポイントが急速に近づいている今日、他者に希望を託している余裕はなく、確実に解決につながるのは自らの行動しかないという意味です。

その際に、個人の生活や仕事のレベルでの実践だけでなく、市民として公共の場で政治や社会に直接的に意見を表明することの効果は彼女は強調しています。

今年はスイスでも、若い人たちと彼らを応援する大人たちによる気候デモが、最も記憶に残る出来事の一つとなりました。9月末のデモでは、九州ほどの大きさのスイスでも10万人が首都ベルンに集まりました。

この運動は、州や国会の選挙にも大きな影響を及ぼし、緑の党が大幅に議席を増やしたことから「緑の波」と呼ばれています。内閣もこの圧力を感じてようやく政策目標を修正し、2050年までにCO2ニュートラルになることを決めました。もちろん実効性のある政策とするためには、今後も市民からの圧力の継続が必要でしょう。

現実的に温暖化を1・5度以下に抑えるためには、次の20年の間に電気・熱・交通の分野での脱炭素化が、ほぼ完了していなければならないといえます。これまでの20年の（政治の）遅々とした歩みを考えると、とてつもなく大きな課題です。

ベルリン技術経済大学の再生可能エネルギーの専門家であるフォルカー・クワシニング教授は、アメリカが60年代に人類を月に送った計画と同じくらいの社会的な優先順位や情熱をもって私たちがこの課題取り組みればそれは解決可能だろう、と講演の中で語っています。

MITでは2020年も、そのような情熱を持った欧州パイオニアの視察を介して、日本でエネルギー大転換と持続可能な地域づくりのために行動する皆さんを応援していきます。

！お知らせ！

★ソーラーコンプレックス社による日本語ニュースレター

下記リンクからソーラーコンプレックス社の日本語ニュースレターの最新号を読むことができます。1月頭には、冬号がアップされる予定です。

ミット・エナジー・ヴィジョンでは、南ドイツの市民エネルギー企業ソーラーコンプレックス社が発行するニュースレターの日本語版の作成をサポートしています。

同社の活動が、日本で地域密着の再生可能エネルギー事業に取り組む方々の参考になることを期待しています。

日本語版ニュースレターのダウンロードはこちらから
<https://www.solarcomplex.de/aktuell/newsletter.html>

今回のメールニュース、いかがでしたか？ それでは、次回もお楽しみに！